

注) 募集の対象は、対面授業とオンライン授業のどちらの授業形態であっても受講が可能で、E-mail(電子メール)の送受信を含みご自身でパソコン操作を行える方のみです。

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

科 目 名	担当	曜日	時限	授業時間	定員
近世の日本史Ⅱ	神崎 直美	月	1	1時限 9:15～11:00 2時限 11:10～12:55 3時限 13:45～15:30 4時限 15:40～17:25 5時限 17:35～19:20 *時間帯は変更される場合があります。 *※印の付いた科目はどちらか一方の時限を選んでください。	若干名
公立文化施設論	土屋 正臣	金	2		
世界の文学B	大橋 稔	水	3		
経営分析Ⅱ	山田 優子	木	3		
エネルギー科学と社会	ティティレイ	木	2		
生活と化学物質Ⅱ	八木 創	木	1		
※ 漢方薬	北村 雅史 横川 貴美 玄 美燕	火	1		
		火	2		
化粧品・香粧品学A	高木 豊	月	3		
ハーブ論	須永 克佳 菊地 秀与	火	3		
接客英語Ⅱ(CR 英語)	三國 信夫	水	2		

ホームページ上で最新の情報を確認後、お申込み下さい。

○秋学期の授業は 9月 29日(月) から始まります。

○受講人数により開講しない場合があります。

○曜日が異なる科目は複数選択可ですが、曜日が同じ科目は複数選択できません。

○お申込み後の科目変更はできません。

○社会情勢及び、授業担当者の都合によりオンライン授業(オンデマンド)に変更する可能性があります。そのため、対面授業とオンライン授業のどちらの授業形態の場合でも受講可能な方を募集します。

- オンライン授業（オンデマンド）の場合はご自宅等での受講となり、インターネット通信環境・インターネットに接続可能な端末等が必要です。大学の端末やシステム等のご利用いただけません。通信料などは受講者負担です。端末の接続や操作方法等のお問い合わせはお受けできません。
- 授業によっては、受講時にご自身の端末を持参して頂く場合があります。
- 受講に関する連絡や講義資料の配布はE-mail(電子メール)が基本です。資料を受信できるE-mail アドレスでお申込みください。
- 成績評価は行いません。学期末試験の受験はできません。但し授業で小テストの実施がある時は、成績評価に関わらず受けていただく場合があります。

(2) 場 所

城西大学／城西短期大学（城西ベースカレッジ）

東武越生線川角駅から徒歩約 10 分。

※公共交通機関をご利用ください。

○大学シャトルバスのご利用はできません。

○大学駐車場のご利用はできません。大学周辺駐車場のご紹介は承れません。



2 受講料等

(1) 受講料 1 科目（半期）につき 10,000 円

(2) その他 教科書等の教材は自己負担によりご用意していただきます。

3 受講の申込み

(1) 申込期限 **2025年 8月 21日（木）**

(2) 申込先

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

電 話 049-271-7795

E-mail extension@josai.ac.jp

(3) 申込方法

下記の Forms(受講申込フォーム) よりお申込みください。送信後に受付の自動返信メールが届きます。

電話・その他のお申込みは受け付けておりません。

「大学開放授業講座 城西大学 2025 年度秋学期受講申込フォーム」



URL <https://forms.office.com/r/CyJzCY75Nz>

(4) 選抜方法

定員を超える申し込みがあった場合には、抽選により受講者を決定します。

※受講の可否および受講決定科目は、申込締切日以降に申込者全員へお知らせします。

(5) 受講手続

受講可能な方へ受講手続書類を送付いたします。期日までに書類の返送と受講料納入等の受講手続をお願いします。

お申し込みから受講開始までの期間が短くなりますのでご了承ください。

(6) その他

○一旦納入された受講料につきましては、お返しすることができません。

但し、受講人数により開講されない場合のみ受講料を返金いたします。

○次に該当する行為があった場合、申し込み手続き中もしくは講座受講中であっても、受講をお断りする場合があります。この場合も、受講料をお返しすることはできません。

a. 本学の授業実施方法、開講内容、申し込み手続き方法等に対してご賛同いただけない場合

b. 講義の進行に影響が出る行為があった場合

c. 本学学生や本学学生の保護者からのクレーム等を受けるような行為があった場合

以上の点につきましても、予めご了承ください。お申し込みくださいますようお願いいたします。

4 各授業科目の概要及び担当教員

近世の日本史Ⅱ (神崎 直美) [秋学期]	「大名夫人の紀行文を読む」 日向国延岡藩藩主夫人内藤充真院(幕府の大老・井伊直弼の姉)が執筆した幕末の紀行文「五十三次ねむりの合の手」を紹介し、その中から見所を神崎が作成した現代語訳と解説と共に読みます。講義ですがグループワークも実施します。秀逸な文章力を有した充真院の紀行文を読み味わいながら、日本史学と日本文学を融合した授業をいたします。 教科書：テキスト データを随時配布します。 参考文献 神崎直美著『幕末大名夫人の知的好奇心―日向国延岡藩内藤充真院―』岩田書院、2016年3月刊行
世界の文学B (大橋 稔) [秋学期]	アメリカのマイノリティ文学を中心に講義を行います。 アメリカ合衆国には、歴史的に人種差別、性差別、経済的差別などさまざまな差別により周縁へ追いやられた人々がいます。そのような彼／彼女たちの視点から社会を見直すことを、彼／彼女たちが求めた社会の在り方について考えます。また平等や正義の在り方についても考えます。 本講義では、アメリカのマイノリティによる文学作品について紹介、分析するだけでなく、アメリカの歴史や文化、マイノリティ研究、フェミニズムなどについても紹介します。補助教材として映像作品なども紹介する予定です。 教科書：指定なし。必要に応じて資料を配布します。 持ち物：筆記用具
公立化施設論 (土屋 正臣) [秋学期]	本講義は、公立文化施設の中でも特にミュージアム(博物館・美術館)を取り上げます。近年のミュージアムは資料の収集と保存、調査研究、展示といった基本的機能に加え、市民の自己啓発支援、生活における「第3の場所」としての役割、地域アイデンティティの確立、観光振興といった幅広い役割を担っています。こうしたミュージアムの社会的役割の拡大と地域社会との関係の変化について教員自身の公立文化施設における実務経験に基づきながら言及しつつ、文化によるまちづくりの今日的潮流を考えていきます。このことにより、総論レベルから実務レベルまでを射程に入れ、ミュージアムの実態に即した具体的な問題解決の方法を提示する能力を習得します。 教科書：『新時代のミュージアム:変わる文化政策と新たな期待』 (ミネルヴァ書房) 持ち物：ノートパソコンもしくはタブレット端末

経営分析Ⅱ (山田 優子) [秋学期]	会計は「ビジネスの言語」といわれ、企業にとって必要不可欠なものである。すなわち、企業は事業活動の結果を帳簿に記録し、財務諸表を作成しなければならない。 財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者がその企業の財政状態および経営成績を理解するうえで重要なだけでなく、企業内部での経営管理にも役立つ。 本講義では、企業が外部に公表している財務諸表を利用して行う財務諸表分析と、企業内での業績管理（利益管理、資金管理等）のさまざまな手法を理解することを目標としている。 本講義の目標は、財務諸表の構造・読み方・分析等の応用知識（ビジネス会計検定2級合格程度）を習得することである。 講義は毎回「(前半) 知識のインプット・(後半) ワークショップ」のセットで行う。会計学に関心があり、ワークショップや課題にも主体的に取り組む意欲のある学生を歓迎する。 教科書：『ビジネス会計検定試験 公式テキスト2級』中央経済社 持ち物：必ず電卓を持参すること その他：担当教員は、公認会計士として財務諸表監査やコンサルティングの実務経験があり、企業の実例を織り交ぜながら講義を展開する。
エネルギー科学と社会 (ティティレイ) [秋学期]	この講義では前期のエネルギー科学の基礎で学んだ熱エネルギー法則（エントロピー）、電気エネルギー、運動エネルギーに関連する基礎知識を元に再生エネルギー、新しいエネルギー源を含め、様々なエネルギー源の利点および問題点を掘り下げていくことにより、創造的思考力を養い、エネルギーに対する幅広い見識を得ることを目的としている。 1. エネルギー利用の歴史：火の利用から始まるエネルギー利用の歴史を理解する上で現在のエネルギー利用の現状を理解する。 2. 熱機関（外燃機関）、蒸気機関、蒸気タービン、スターリンエンジンを理解する。熱機関（内燃機関）ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、ガスタービンを理解する。 3. 発電の原理：運動エネルギーを電気エネルギーに変える。直流と交流、送電について理解する。 4. 核化学1：原子の構造と同位体・不安定同位体の壊れ方について理解する。 5. 核化学2：放射線の量とその影響について理解する。 6. 原子力発電：核エネルギーと核分裂の開始・停止とウランの濃縮について理解する。原子力発電のコストと廃棄物処理を理解する。 7. 中間テスト。 8. 太陽光発電1：太陽光発電の歴史と太陽光エネルギーについて理解する。太陽光発電半導体技術について理解する。太陽光発電の未来について理解する。 9. その他の発電（風力発電、潮力発電、波力発電）について理解する。

	10. 再生エネルギー：地熱発電，ごみ発電(ごみ資源)について理解する。 11. 環境問題とエネルギー（地球温暖化）について理解する。 12. 脱炭素社会とコミュニティーベースのエネルギー構造を理解する。 13. まとめ。 教科書：毎回試料を配布し、特に使用しない予定。 持ち物：筆記用具 その他：参考書：①エネルギーの科学 第2版、(人類の未来に向けて) 安井伸郎 (著) ②コミュニティーエネルギー (室田武、他) (著)
生活と化学物質Ⅱ (八木 創) [秋学期]	化学そのものを中心に据えながらその実用性や応用面などを通し化学と日常生活の結びつきについて講義を行います。授業は化学科教員全員が得意分野を中心として趣向をこらしたテーマを設定したオムニバス形式で進めます。以下のようなテーマを扱う予定です。 半導体 炭素材料 岩石・鉱物から見た地球の進化 ディスプレイ材料 身近な名前を持つ化学物質たち 動物の性一性染色体とホルモン 身近な機能性物質～磁石の起源とその応用 色の化学 化学の黎明 生活と放射線—放射線の持つ性質と産業利用 脳に作用する化学物質 あまーい化学漫談 遺伝子組み換えとゲノム編集の違いって？ 教科書：使用しません。 持ち物：筆記用具

漢方薬 (北村 雅史) (横川 貴美) (玄 美燕) [秋学期]	【授業の方法・講義手法の概要】 教科書および配布資料に基づき講義形式で行う。 漢方医学の考え方、代表的な漢方処方について体系的に理解し、現代医療で使われる生薬・漢方薬について理解することを目的とする。漢方医学は中国で生まれ、日本で独自に発達した医学である。漢方の歴史、漢方・中医学の特徴について学び、漢方薬の薬効、生薬の薬能、頻用漢方処方の適応となる証、症状や疾患に関する知識を習得する。
化粧品・香粧品学 A (高木 豊) [秋学期]	【授業の方法・講義手法の概要】 教科書および配布資料に基づき講義形式で行う。 化粧品は顔・体を清潔にする、健やかに保つ、外見を際立たせる等の目的で用いられるものである。そのため、化粧品を有効にかつ安全に使用するためには、肌についての知識を高め、化粧品の功罪を使用者に正しく伝える必要がある。 そこで、「化粧品・香粧品学 A」では、まず健康な肌（皮膚）そして病的な肌の形態と機能、次に化粧や美容のための科学的側面について学ぶ。さらに、これらの知識を基に、化学物質としての香粧品（化粧品を含む）を知り、これらの最適使用法について考えられるようにする。 教科書：美容のヒフ科学（南山堂） 持ち物：なし その他：なし

ハーブ論 (須永 克佳) (菊地 秀与) [秋学期]	【授業の方法・講義手法の概要】 配布資料に基づき講義形式で行う。 ハーブとは香草や薬草と邦訳され、人の生活に役立つ植物を指します。その中で人の健康維持のために利用しようとするものはメディカルハーブと呼ばれます。現在、健康志向が高まり、自分の健康を自分で守るという「セルフメディケーション」が推進されており、メディカルハーブの活用が進められています。さらにメディカルハーブは、機能性表示食品や健康食品の素材としても注目されています。 本講座ではメディカルハーブをセルフメディケーションに安全かつ有効に活用するための知識、すなわち機能性（作用）、有効成分、安全性、使用方法、医薬品との相互作用などについて修得することを目的とします。また、メディカルハーブを活用するアロマセラピーやハーブ療法など植物療法（フィトセラピー）の概要についても学びます。 教科書：配布資料
接客英語Ⅱ（CR 英語） (三國 信夫) [秋学期]	(1) 授業の概要 接客英語Ⅰで学んだ基礎をもとに、より高度な表現や対応スキルを身につけます。ケーススタディやシチュエーション別のロールプレイを取り入れ、実践力を強化します。 (2) 授業の目的 接客英語の応用を学び、実際に接客の場面で活用できる応用的なスキルを身につけることを目的とします。 (3) 授業の方法 この講義は主として、演習形式で行います。 授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。 ・問答法（学生の意見や小テストの結果、アイデア、学習理解状況を聞いて、それを基に授業を進めていく） ・学生の回答などのフィードバックが授業の構成要素に入っている ・学生への発問及びその回答が授業の構成要素に入っている ・P B L ・ディスカッション・ディベート ・ICT を利用した授業内レスポンスの活用（クリッカー等） ・グループワーク ・プレゼンテーション